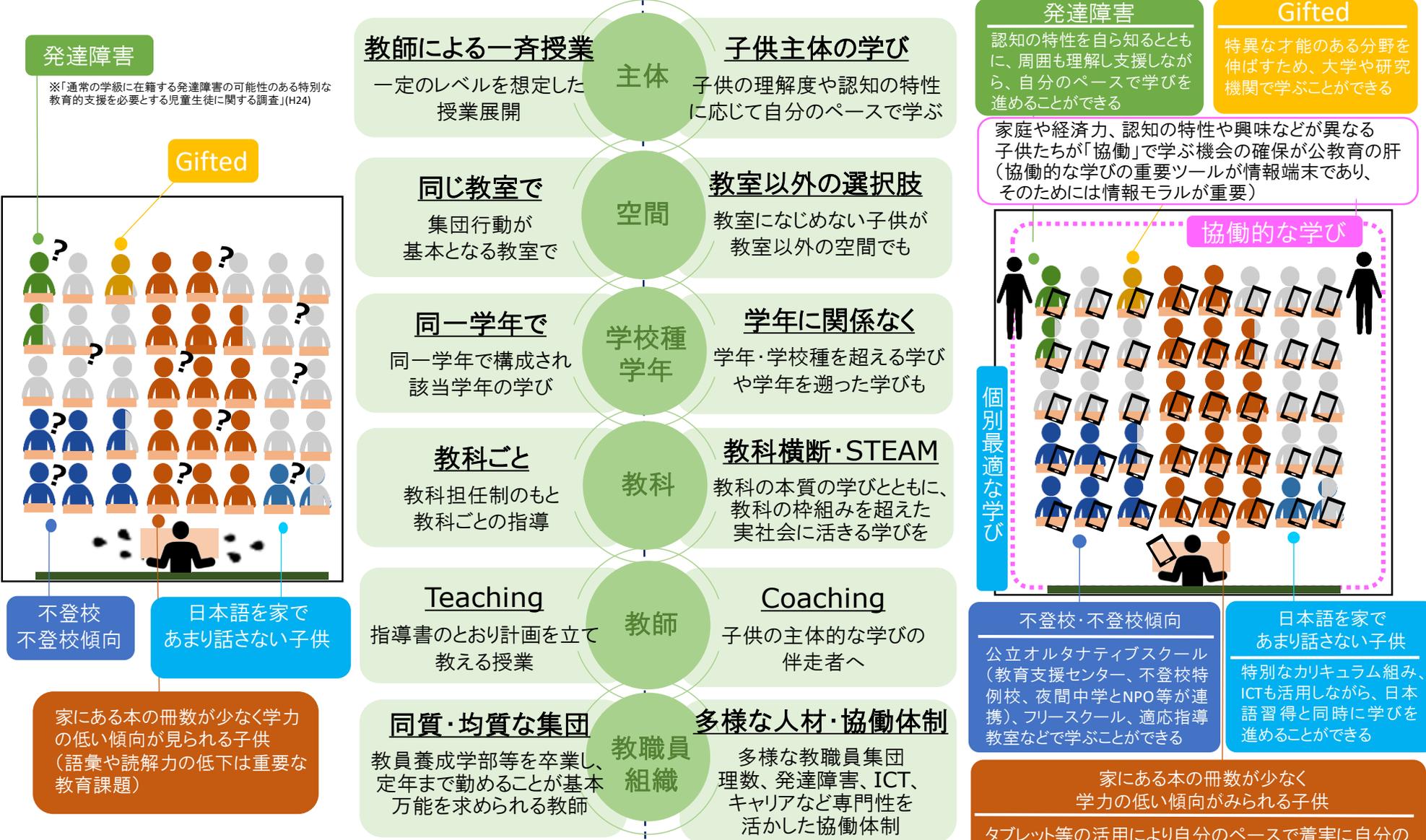


第1回「時間」資料 「子供の学びの時間軸」の多様化を実現(たたき台)～中学校40人学級の教室にあてはめた場合～

子供たちが多様化する中で  
紙ベースの一斉授業は限界

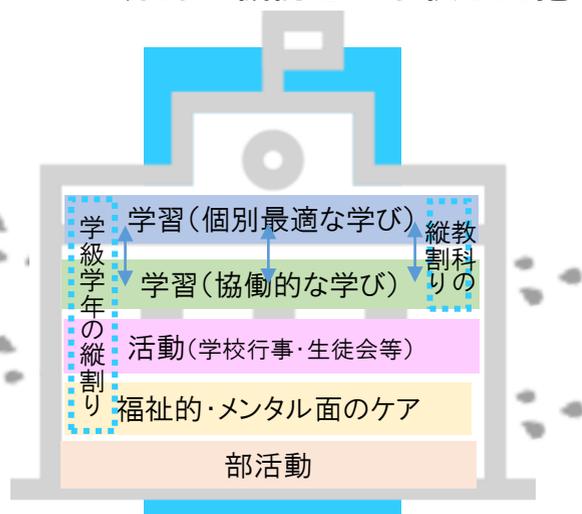
多様な子供たちに対してICTも活用し  
個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実



※限られたリソースの中、個別最適な学び・協働的な学びを追求している学校や教師も沢山いるが、現リソースでは一般的に限界があることを想定して図式化したもの

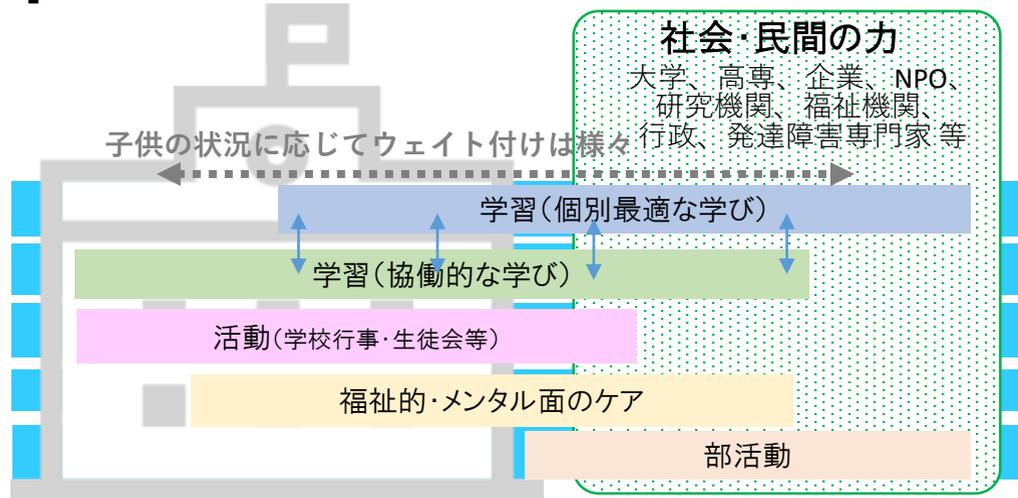
(参考)教育DX:学校のあるべき姿とは(たたき台)

### すべての分野・機能を一学校が丸抱え状態



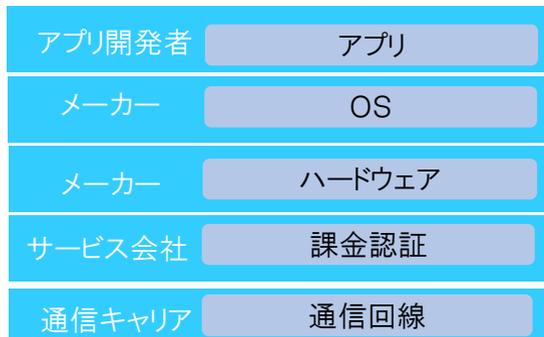
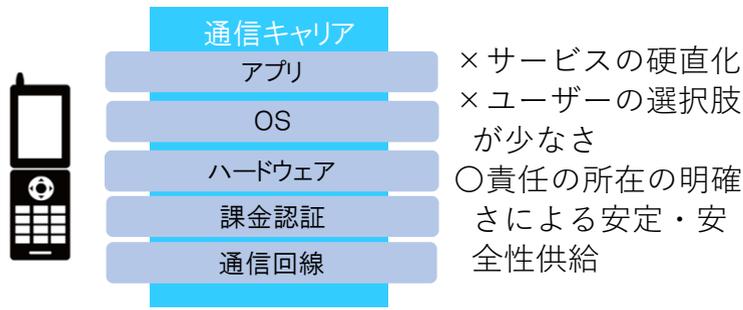
- 学級という集団の中で質の高い一斉授業を行うことにより、体系的なカリキュラムの実施や対話や協働を重視した学びが可能
- 学校の責任のもと、教科指導、特別活動、部活動などを通して全人的教育を行い、福祉的機能も担う
- ×手続き的・形式的な公正やルールが重視され、過度の同調性や画一性をもたらすことも
- ×子どもたちの認知の特性や関心に応じた個別性の高い教育を実現するためには、時間や人材などのリソースが十分ではない

### 分野や機能ごとにレイヤー構成、様々なリソースを活用



- ×学び方が時間的に空間的にも多様化すると、学びの体系性や集団としての教育の機能が弱くなる可能性  
→ スタディログなどにより子供の学びを教師が把握し伴走するとともに、協働的な学びの場を確保する必要
- ×学びや体験活動などの実施主体や責任の所在が不明確になる可能性  
→ 学び全体はスタディログ等で学校が把握・支援するとともに、活動ごとの責任の所在や情報の管理主体の明確化が必要
- ICTも活用し、自分のペースで学びを調整したり、学校外のリソースを活かした学びを進めたりすることが可能
- 多様や教職員集団や様々な学校外のアクターが関わることにより、子供たちの認知の特性・関心により応じた教育の展開が可能

### 参考



- ユーザーによる最適化
- 専門化で質の向上
- ×責任の所在の不明確さ

Demand Side

子供	多様な背景や認知特性等を含めた子供たちの多様化 (特別支援、不登校、特異な才能のある子供、日本語指導、貧困等)							
	<b>学校生活の満足度の低下</b> 「楽しいと思える授業が沢山ある」 74.8% (中1)    69.2% (中3)    66.3% (高1)    56.4% (高2)			自分で社会や国を変えられると思う 18.3% (18歳) (中国65.6%、印83.7%)		<b>経済界</b> <求める資質・能力> 数理的推論・データ分析力、論理的文章表現力、外国語コミュニケーション力等、論理的思考力と規範的判断力、課題発見・解決能力、未来社会の構想・設計力、高度専門職に必要な知識・能力		
	<b>理数の学力は世界トップレベル</b> TIMMS2019 (小4)    TIMMS2019 (中2)    PISA2018 (高1) 理科 4位/58か国    理科 3位/39か国    科学的リテラシー2位/37か国 算数 5位/58か国    数学 4位/39か国    数学的リテラシー1位/37か国			<b>理科や算数・数学はあまり楽しくない</b> 小4 日本 (国際平均)    中2 理科楽しい 92% (86%)    70% (81%) 算数・数学楽しい 77% (84%)    56% (70%)		<b>理数離れ加速</b> ・普通科7割 →うち文系7割 →うち物理履修は2割		<b>先細る理系人材</b> 【学部】 人社系 5割 理工農系 2割
	<b>中→高で理系志向の割合は増えず、文系志向のみが増</b> 理系を意識    中3 31% (男子41%、女子19%) → 高3 31% (男子40%、女子20%) 文系を意識    31% (男子20%、女子44%)    51% (男子42%、女子62%)							
<b>忙しい、好きなことをする時間がもっとほしい</b> 好きなことをする時間がもっとほしい 忙しい 51.2%    64.8%    70.4% 80.5%    86.3%    84.9%								

人材の質的・量的需給のミスマッチ

Supply Side

	就学前	小学校	中学校	入試	高等学校	入試	大学	社会 (企業等)
教育内容 (ソフト時間)	新学習指導要領実施 (資質・能力ベース、教科等横断的な学び、社会に開かれた教育課程の実現) 具体 → 抽象化・高度化 授業時数の設定 (R4~標準授業時数の一定の弾力化を認める特例実施) 個別最適な学びに向けたICT・データ活用が課題					普通科7割、文理コース分け 総合的な探究の時間 理数探究 (R4~)		社会との連携・協働による社会に開かれた教育課程の実現
教職員 (ヒト)	教員の多忙化、長時間勤務による疲弊 学級担任制 (全教科指導) 持ちコマ数の多さ 文系出身の教員中心 理科指導への苦手意識強め					教科担任制 教科担任制		
学校 (ハード)	GIGAスクール構想 (1人1台端末整備) 実現 →定期的な端末更新の必要 安定したネットワーク環境の必要、GIGAスクール構想を踏まえた統合型校務支援システムの整備の在り方					保護者負担 (BYOD) 含めた 端末整備の推進		
	教員採用倍率の低下、教員不足							老朽化に伴う校舎の建て替え